

ももたろう基金【第5助成】 事業実施報告書

実施事業	臨床美術による心のケア
実施者名	クリニカルアートまびの会
助成金額	185,000円
受益者数	直接受益者 108名 (間接受益者 42名)

※イベント実施や複数回実施事業は別紙で各回の人数等、対象者数のわかる資料を添付ください。

実施した事業の内容・成果

<実施内容>

- ① 12月・1月・3月多機能グループホーム「ぶどうの家」真備でのセッション
- ② 1月親子遊び&ほっとサロンでのセッション
- ③ 1月真備地区菌親子クラブでのセッション
- ④ 2月「ぶどうの家」利用者とカナリア保育園親子合同行事でのセッション

<成果>

- ・活動の背景となる課題・問題をとおして、臨床美術活動を継続的に長期にわたって寄り添うなか支援活動の充実ができた。
- ・活動から気づいた心のケアの必要性も多職種との連携（川崎医療福祉大学の先生方）をはかりきめ細やかに被災者の生活復興の支えとなることができた。

活動の様子（写真などを添付してください）



12月14日の様子



12月17日の様子



1月21日の様子



1月22日の様子



2月8日の様子



3月8日の様子

決算報告 (※原則として領収書の写しを添付いただきます。)

今回実施した事業の決算内容は下記の通りです

収入の部		費目	金額 (円)
		ももたろう基金助成金	200,000
		収入合計	200,000

支出の部		費目	算出根拠	金額 (円)
①当プログラム助成金 対象費目 当プログラム助成金 (このプログラムで集めた寄付金) を充てる費目		画材材料費	プログラム画材	144,042
		材料費		15,705
		消耗品費		19,460
		雑費	郵券料・コピー代他	5,793
			小計	185,000
	②その他費目 当プログラム助成金 (このプログラムで集めた寄付金) を充てない費目			
			小計	0
			支出合計	185,000

寄付者へのメッセージ

皆さま方のご寄付で、西日本豪雨から数ヶ月経ちますが真備町の復興はまだ途上です。被災直後は住宅復旧や安心できる生活環境を整えるための緊急のボランティアが必要とされます。被災後数ヶ月が経ち、ひとまず危険な状況は回避された被災者の方々に押し寄せてくるのは、大きな喪失感と不安、焦り、そして孤独です。しかし、それを外に出すことのできる場はあまりなく、人知れず PTSD (心的外傷後ストレス障害) に苦しんでおられる方も多いかと思います。そのような状況で、被災直後から医療活動を行っていた医療従事者の方々が、被災した子どもたちの心のケアが必要と感じ、クリニカルアートの出番ではないかとお声掛けくださいました。そして、臨床美術協会を通して全国のクリニカルアーティストに参加を募り、『クリニカルアートまびの会』の活動がスタートすることができました。ありがとうございます。

今後の活動

4月から毎月第1金曜日に、小規模多機能グループホーム「ぶどうの家」で臨床美術のセッションを定期的に行い、「真備地区子育て cafe」での子育て支援にもかかわっていく予定です。今後は、小規模多機能グループホーム「ぶどうの家」や「真備地区子育て cafe」での子育て支援でのセッションに、川崎医療福祉大学の先生や臨床心理士の方々と連携を強化していく事ができるよう努めていきます。